

学年	教科等	単元名	日時
第4学年	国語科	人物の気持ちの変化と関係をとらえよう [教材:「ごんぎつね」]	平成29年11月1日(水)5校時
【問題意識や目的意識を持続させる単元構成の工夫】 単元の導入で、事前に読み聞かせした他の物語を基に、それに対する思いや考えを発表させたり、教師が子どもとは別の視点からの感想を紹介したりすることで、感じ方や考え方の違いにふれ、感じ方や考え方は多様であることに気付けるようにする。そこから、単元のゴール「MSE 4-3!物語を語ろう会」を設定し、最終場面の感想を伝え合うことを確かめさせることで、単元をととした目的意識をもてるようにする。 【言葉に向き合わせる言語活動の工夫】 本時では、最も強く気持ちが表れている部分を短冊に書く活動に小グループで取り組ませることで、互いにかかわりながら言葉に向き合い、人物の気持ちの変化をか話し合うことができるようにする。また、一単位時間で読み取った内容を、登場人物、人物の性格や境遇、状況等のコーナー、さらには、場面での人物日記として「MSE 4-3!物語パンフレット」に整理させていく。 【何を学んだか】をふりかえらせる手立ての工夫 一単位時間の終末の段階に、人物の気持ちや気持ちの変化、人物同士の関係を視点に、自己評価によってふりかえらせることで、子ども自身が学習で身に付けたことを実感できるようにする。			

本実践の主張

【問題意識や目的意識を持続させる単元構成の工夫】

単元の導入で読み聞かせした他の物語を基に、それに対する思いや考えを発表させた。そして、本単元で新たに捉えさせたい「中心となる人物との関係」の視点を加えた教師の感想を紹介した。その後、単元のゴール「MSE 4-3!物語を語ろう会」を設定し、最終場面の感想を伝え合うことを確かめさせることで、単元をととした目的意識をもてるようにした。



単元の導入での感想交流

またみんなの感想が聞きたいな。今度は、感想にこれから読み取る人物の気持ちの変化と関係を入れていきたいな。



パンフレット



文中の主語をグループで考える



ここにはごんが入るね。あつ、次は兵十だ!

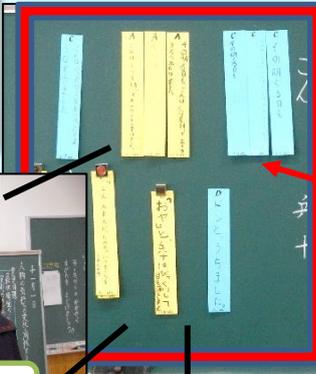
【言葉に向き合わせる言語活動の工夫】

最終場面の内容をより捉えられるように文の主語を考えさせた。さらに、気持ちの変化が表れている部分を短冊に書き出し、分類や順序性を考えながら、叙述を基に言葉に向き合っているようにした。

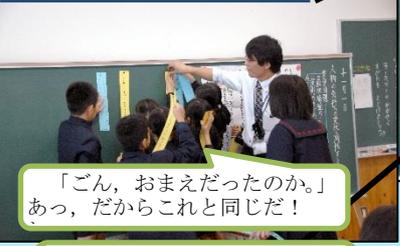


最初のA~Dと同じ色の短冊に書くんだね。

ごんと兵十の気持ちの変化が最も強く表れている文中の言葉は何か?それを短冊に書き出してみよう!



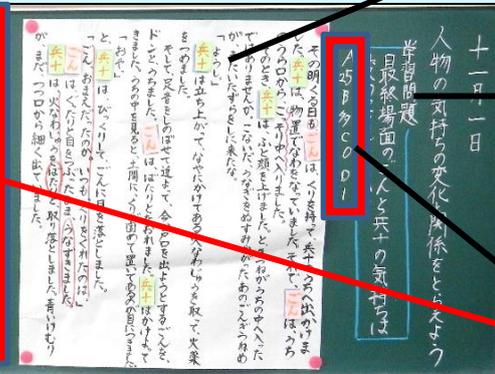
叙述の分類、並べ替え



「ごん、おまえだったのか。」あつ、だからこれと同じだ!

ぼくは、兵十の気持ちは変わってしまったと思います。

ごんは最後に気持ちが変わったんだと思います。それは、前の場面のごんは兵十に気付いてほしいと思っている、その思いが通じたからです。



「ぬすとぎつね。」神様のしわざ

変わった? 変わってない?

後かい 気づいてほしい

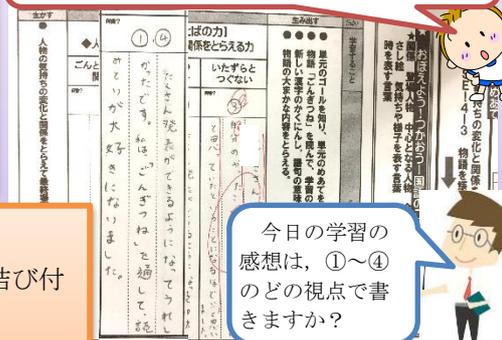
A	ごん	→	変わった
B	兵十	→	変わった
C	ごん	→	変わっていない
D	兵十	→	変わっていない

導入での自分の立場の明確化

【何を学んだか】をふりかえらせる手立ての工夫

一単位時間の終末の段階で、4つの視点の自己評価によってふりかえらせることで、子ども自身が学習で身に付けたことを実感できるようにした。

①できるようになったこと・わかったこと、②学習で学んだことをどのように生かしたいか、③「なるほど!」と思った〇〇さんの考え、④その他



今日の学習の感想は、①~④のどの視点で書きますか?



授業をふりかえって・・・

- 「言語活動」と「活動」の違いを明確にする必要がある。今後は、指導事項に結び付く活動を意識し、言葉に向き合わせる言語活動を工夫していきたい。
- 全員に自分の考えを書かせ、子どもが考えをもって学習に参加できるようにしたい。また、音読や黙読により、何度も教材文に目を向けることをくりかえしながら、そのなかで子ども自らが言葉に向き合った発言ができるような授業の在り方が大切である。

御意見・御質問はこちら(研究部アドレス)

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

授業実践計画

○ 指導計画 (11 時間)

- (1) 単元のゴールの姿から単元のめあてを設定し、学習計画を立てる。————— 3 時間 【関・意・態】
- (2) 新出漢字や語句の意味を確認し、教材の内容や構成の大体を捉える。————— 2 時間 【読】【言】
- (3) 教材「ごんぎつね」を読み、人物の気持ちの変化と関係を読み取る。————— 4 時間 【読】【言】
- ・ いたずらと償いをするごん 2
 - ・ 最終場面のごんと兵十 1 (本時)
 - ・ これまでのごんと兵十 1
- (4) 「MSE 4-3 ! 物語を語ろう会」に向けて感想をまとめ、伝え合う。————— 2 時間 【関・意・態】【読】【言】

○ 本時の目標

文の主語となる人物や会話文、行動を表す言葉に目を向け、最終場面でのごんと兵十の気持ちの変化と関係の根拠となる叙述を読み取ることができる。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 本時の学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 既習教材「走れ」の想起 ○ 本時の学習問題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">最終場面で、ごんと兵十の気持ちは変わったのだろうか。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「走れ」を例に、物語では中心となる人物の変化が見られることを確認し、ごん、更に兵十には、気持ちの変化が見られるかを問うことで、自分の立場を明確にし、学習問題に迫れるようにする。
<p>2 本時の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の範囲 P24014～P2604 ○ 学習の方法 ・ 教材文の穴埋め → 短冊への書き出し 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書を開かずに教材文の穴埋めに取り組みせることで、叙述やごんと兵十の関係に目を向け、内容を捉えることができるようにする。
<p>3 教材文の空白部分に入る人物が、ごんと兵十のどちらであるかを考え、気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材文の穴埋め (小グループ) ・ ごんは、くりを持って、兵十のうちへ出かけました。等 ○ 変化の有無が最も強く表れている部分 ・ 変化した → 黄色の短冊 ・ 変化していない → 青色の短冊 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文の主語となる人物名の穴埋めを小グループで取り組ませることで、文章の内容を理解することの個人差を減らし、人物の気持ちの変化と関係を捉えることにつなげられるようにする。 ○ ごんと兵十のそれぞれの気持ちが変わった、または、変化していないことが最も強く表れている部分を小グループで短冊に書き出させることで、話し合う際に視覚的に捉えられるようにする。
<p>4 ごんと兵十の気持ちが変わったかどうかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 兵十 ・ 変わった → 火なわじゅうをばたりと、取り落としたから。等 (理由) 後悔している。等 ○ ごん ・ 変わった → うなずきました。等 (理由) やっと分かってもらえた。等 ・ 変わっていない → ばたりとたおれました。等 (理由) 変わる前にうたれたから。等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書き出した短冊を分類して、順序性を確認させることで、最終場面の内容や他グループの考えを正しく捉えられるようにする。ここでは、変化したかどうかを捉えさせることに留めるが、反応によってはどのように変化したかを、これまでの場面と関連付けて捉えることができるようにする。 ○ ごんの気持ちの変化に対する叙述が出てこなかったり、偏ったりすることが考えられるため、「うなずきました。」等の短冊を示し、子どもたちの考えを促したり、ゆさぶったりするようにする。
<p>5 本時の学びをふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 気持ちが強く表れているところ (視写・音読) ◆ 「ごん、おまえだったのか。いつも、くりくれたのは。」 ◆ ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。 ◆ 兵十は、火なわじゅうをばたりと、取り落としました。 ○ 本時の学習の感想 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時で学習したことを踏まえて、ごんや兵十の気持ちが強く表れているところを視写、音読させることで、人物の気持ちの変化や関係を実感できるようにする。

○ 学びの本質に向かっている子どもの姿

わたしは、ごんの気持ちは変わっていないと思うわ！ごんは気持ちが変わる前に**ばたりとたおれてしまった**のよ。いや、ぼくは、**変わった**と思うよ。うたれてぐったりしているのに、兵十の声掛けに**うなずいた**からさ！ごんの思いが届いたんだよ！

【読む能力】



○ 単元指導計画 (11 時間)

段階	主な学習活動及び学習内容 ※吹き出しは予想される子どもの問題意識や目的意識	教師のかかわり	具体的な評価規準
生 み 出 す (3)	<p>1 単元のゴールの姿から単元のめあてを設定する。 < 1 時間 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身に付けたいことばの力 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 人物の気持ちの変化と関係をとらえる力 ○ 単元のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 人物の気持ちの変化と関係をとらえて、「MSE 4-3！物語を語ろう会」をしよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> またみんなのいろいろな感想が聞きたいな。これから、人物の気持ちの変化と関係を読み取って、自分なりの感想をまとめていこう！ </div> <p>2 教材を通読し、学習計画を立てる。 < 2 時間 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 初発の感想(1) ○ 学習計画の設定(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前に単元末に紹介されている本の読み聞かせを行う。そして、その感想を発表させたり、教師の感想を紹介したりすることで、感じ方や考え方の違いにふれ、その多様さに気付けるようにする。 ○ 感想の内容を分類して整理させることで、人物の気持ちの変化と関係に着目していることに気づき、学習の目的意識やゴールイメージをもてるようにする。 ○ 単元のゴール「MSE 4-3！物語を語ろう会」を設定し、物語の最終場面の感想を伝え合うことを確認させることで、単元をとおした目的意識をもてるようにする。 ○ 人物の気持ちの変化と関係を視点に初発の感想を書かせることで、本教材に対する思いや考えを把握し、それを基に学習計画を設定できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読み取ったことを整理して、物語の最終場面の感想を伝えることに関心をもち、人物の気持ちの変化と関係を読もうとしている。(関・意・態)
挑 む (6)	<p>3 新出漢字と語句の意味を確認する。 < 1 時間 ></p> <p>4 教材の内容や構成の大体を捉える。 < 1 時間 ></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 第6場面に二人の気持ちの変化や関係が大きく表れているような気がするぞ。 </div> <p>5 教材を読み、人物の気持ちの変化と関係を読み取る。 < 4 時間 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ いたずらと償いをするごん(2) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> いたずらしていたごんが、なぜ償いを始め、しかも長く続けていったのかな。 </div> <p>本時 3/4</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 最終場面のごんと兵十(1) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 最終場面で、ごんと兵十の相手への気持ちは変わったのかな。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでのごんと兵十(1) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 二人の気持ちの変化を表すと、どのようになっているのかな。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新出漢字や語句の意味を確認させることで、表現したり理解したりするのに必要な語句を増やせるようにする。 ○ 物語の登場人物、場面設定、時間の流れ等を確認させることで、教材の内容や構成の大体を捉えることができるようにする。 ○ 全文の挿絵といたずらや償いを書いた短冊を並べ替えさせたり、また、結び付けさせたり、更には、高低差を付けたりすることで、ごんの気持ちの変化と兵十との関係を読み取れるようにする。 ○ 文の主語となる人物名の穴埋めをさせたり、気持ちが表れている部分を短冊に書き出させたりすることで、人物の気持ちの変化と関係を捉えられるようにする。 ○ 挿絵の並べ替えをしながら、これまでの二人の気持ちを心情曲線に表現させることで、人物の気持ちの変化と関係を物語全体から捉えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情景描写やごん、兵十の気持ちが表れている言葉を調べ、表現したり理解したりするために必要な語句を増やしている。(言) ○ 場面の移り変わりとともに変化のごんと兵十の気持ちの変化と関係を読み取っている。(読)
生 か す (2)	<p>6 最終場面の感想をまとめる。 < 1 時間 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「MSE 4-3！物語パンフレット」への感想のまとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> まとめたパンフレットをふりかえって、物語の最終場面の感想を書くぞ。 </div> <p>7 「MSE 4-3！物語を語ろう会」を行い、最終場面の感想を伝え合う。 < 1 時間 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感想の交流 ○ 初発の感想との比較 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 友達の感じ方や考え方は、いろいろとあっておもしろかった。自分の感想も初めのものよりもよくなっているぞ。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読み取った内容を登場人物等、更には、場面での人物なりきり日記としてまとめた「MSE 4-3！物語パンフレット」をふりかえらせることで、最終場面の感想をまとめられるようにする。 ○ 作成した感想を発表し、思いや考えを伝え合わせることで、本教材における感じ方や考え方の違いに気付くことができるようにする。 ○ 初発の感想と最終場面の感想を比較させることで、学習をとおして、人物の気持ちの変化と関係を読み取り、作品を深く読むことができたという実感を味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 適切な言葉を使って、自分の考えたことや思ったことを物語パンフレットに表している。(言) ○ 完成した物語パンフレットを使って、自分の感想を伝えたいという意欲を高めている。(関・意・態) ○ 感想を伝え合い、自分以外の感じ方や考え方に気付いている。(読)